

2020年8月31日～9月13日に行われたテニスの全米オープン女子シングルスで、大坂なおみ選手が2年ぶりの優勝を果たしました。大坂選手は、一回戦から入退場の際などに、過去に白人警官などに殺害された黒人の名前が書かれたマスクを着用。決勝戦のマスクには、2014年にオハイオ州で警官に射殺された少年(当時12歳)の名前がありました。

表彰式のインタビューで、マスクに込めたメッセージを聞かれ「あなたが受け取ったメッセージは何でしたか? 重要なのは、人々が議論をはじめること」と、人種差別について、全世界へ問題提起を行いました。

人の価値は、生まれた場所や文化、肌の色などで決まるものではありません。日本は島国であるということもあり、多様性の限られた環境下にあることで「人種」について身近に感じる事が難しいかもしれません。しかし、日本でも「アイヌの民族問題」「外国人の人権問題」など、人種に対しての差

国際人種差別撤廃デーを前に思う

別が存在しています。それは、「同和問題」など過去の歴史の中で作り出されたものも含まれていて、差別の意識は根強く残っています。

たとえ一部の人が差別を訴えたとしても、一人ひとりが自分自身のこととして考えていかなければ、撤廃していくことはできません。次世代へ差別を残さないために、私たち大人が正しく学び、知ることが何より大切ではないかと思えます。

毎年3月21日は、南アフリカのシャープビルで、人種隔離政策(アパルトヘイト)に反対するデモ行進に対して、警官隊が発砲し、69人が死亡した事件をきっかけに、1966年に国連総会で制定された「国際人種差別撤廃デー」です。

*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

■問い合わせ

人権啓発広報委員会

☎ 880・6569